

長期株冷蔵いちごの栽培法

— 苗質・定植時期・マルチの種類 —

(園試野菜花き部)

南部分場

高冷地開発センター

1. 背景とねらい

本県のいちご生産は、これまで無加温促成や露地栽培を中心に行われてきたが、労働ピークの分散や消費動向の多様化にともない、近年、株冷蔵による秋どりいちごの生産も増加してきている。

しかし、中長期株冷蔵による夏秋どり栽培は、夏季冷涼な気象条件に恵まれてはいるものの、盛夏期を経過するため技術上の問題も少なくない。そこで、安定生産を目標とした株冷蔵イチゴの技術確立のため、地帯別の定植時期の検討を中心に、良苗生産技術、苗の活着促進、品種等について検討してきた。得られた成果について参考に供する。

2. 技術内容

1) 苗質の確保

仮植時期は 7月20日～30日頃行い、採苗する苗は本葉3～4葉の出来るだけ大苗を仮植する。掘上げ入庫までに株重量45～50g以上確保するよう育苗を行う。

2) 作型が成立する地帯別定植期と有望度

利用 株	定植期 地帯	定植期												収穫期の目安															
		5月×			6月×			7月×			8月×			時期 地帯及び 定植期	7月			8月			9月			10月			11月		
30日	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	7月 20		30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30		
一 季 目	県央部	←○		×	——			×			○→	◎	県央部	5月下旬	●		●											無	
	沿岸部	←◎	←○	×	——			×			○→	◎		8月上旬								●	——	●					無
	高冷地	←◎	←○	△	——	×	——	×			△→	×		8月下旬	●		●												無
二 季 目	県央部	◎									△	×	沿岸部	5月下旬	●		●											無	
	沿岸部	◎	◎								△	×		6月上旬		●		●											無
	高冷地	◎	◎	○							△	×		6月下旬		●		●											無
													高冷地	8月上旬							●	——	●					無	

有望度：◎有望 ○やや有望 △年次により不安定 ×不成立

3) 高温障害軽減のためのマルチ利用

高地温による生育障害を軽減するために、白黒ダブルマルチの使用が有効である。

4) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意事項

1) 作型の成立する定植期で好適な品種は「盛岡16号」で、果実が硬く光沢に優れ、収量でも安定している。

2) 作型成立可能性判定のうち「やや有望」(○印)や、「不安定」(△印)と評価した時期でも種うき果が発生することがある。

- 3) 県中央部、沿岸北部で8月下旬に定植する場合には、凍害防止のためのビニール被覆が前提となる。
- 4) 白黒ダブルマルチ被覆は全期間有効であるが、特に高温期に植付け及び収穫する作型では効果が高い。
- 5) 試験実施場所が県中央部は北上、沿岸部は陸前高田、高冷地は奥中山であるので、該当地帯の選択にあたっては、このことを考慮する。
- 6) その他一般的な留意事項は「栽培技術指針」を参照のこと。

4. 当該事項にかかる試験研究課題名

「寒冷地における長期株冷蔵イチゴの生産安定技術の確立」

(総合助成課題)

5. 参考文献

「岩手県園芸試験場 野菜試験成績書」 (昭和57～59年)

「 " 南部分場試験成績書」 (")

「 " 高冷地開発センター試験成績書」 (")

「昭和56年度野菜試験成績概要(北海道・東北)」 (山形砂丘地農試)

6. 試験成績の概要

(表-5) 地帯別定植時期と収量

項目 植付 時期	県中央部				沿岸部				高冷地			
	a 当り収量 (kg)			有望度	a 当り収量 (kg)			有望度	a 当り収量 (kg)			有望度
	57年	58年 *	59年		57年	58年 *	59年		57年	58年 *	59年	
5月25日	—	70.0	17.7	○	—	67.6	58.3	◎	—	81.7	83.7	◎
6月10日	—	26.1	2.1	×	—	50.2	21.2	○	—	71.9	41.9	○
6月25日	23.8	34.4	2.6	×	31.7	34.1	8.9	×	76.8	46.9	5.0	△
7月10日	—	0	2.8	×	—	19.0	10.8	×	—	25.2	2.4	×
7月25日	51.4	1.2	13.7	×	0	9.7	10.8	×	48.9	33.2	7.9	×
8月10日	—	7.4	32.7	○	—	5.4	44.2	○	—	17.7	8.8	△
8月25日	28.8	9.6	47.9	◎	64.2	17.9	56.2	◎	—	—	—	—

注) * 58年度後期の低収は、冷蔵中の停電による株障害が原因である。
また、県中央部、59年5月25日定植は、長雨により腐敗果が多発した。

(表-2) マルチの種類と収量

(20株)

項目 マルチの種類		販売可能果 (良果)		くず果		病果数	合 計 果 数	良果率 %	平均果重 (g)		a 当り	同左比
		個 数	重 量 g	個 数	重 量 g				良果	良果+くず果	収 量 kg	
59 年	イナワラ	116.0	1,100	53.0	193	0.5	169.5	68.4	9.5	7.6	61.1	(100)
	黒マルチ	101.5	958	46.5	180	2.0	150.0	67.7	9.4	7.7	53.2	87
	白黒ダブルマルチ	116.5	1,115	54.0	202	1.0	171.5	67.9	9.6	7.7	61.9	101
60 年	イナワラ	111.5	1,073	67.0	253	0	178.5	62.5	9.6	7.4	59.6	(100)
	黒マルチ	133.0	1,153	101.7	366	0.7	235.4	56.5	8.7	6.5	64.1	108
	白黒ダブルマルチ	130.0	1,188	114.5	427	2.0	246.5	52.7	9.1	6.6	66.0	111

(定植期 59年: 8月20日, 60年: 6月4日)